

## IV 教育目標の達成度と教育の効果

### 1. 【単位認定について】

(1) まず次の「単位認定の状況表」の例示を参考にして、当該学科等の単位認定の方法と評価の実態を記載。

単位認定の状況表は、省略。

(2) 次に当該学科等の学科長等が、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述。

#### <A 生活科学学科>

生活科学学科の各専攻の単位認定と評価の状況はおおむね妥当である。各専攻の性格、学生の質の違い、達成目標の設定の違い等から評価や認定の結果に専攻間でバラつきがあるが、単位不認定の率はおおむね10%以下で学生も努力をしている。また、再試験の不合格者に再度試験を行うなど、該当学生への特別指導をきめ細かく行っている担当教員もいる。

#### <B 幼児教育学科>

幼児教育学科専門科目における単位認定の方法および単位の取得状況、また学習評価は概ね妥当と思われる。専門科目(50科目)における単位取得率 $(\text{単位取得者数} / \text{履修者数}) \times 100\%$ は、100%~92%の間を推移しており、科目間にさほどバラつきがあるとはいえない。また単位取得率が95%に達しない科目が6科目でさほど多いとは思えない。また再試験で認定ラインに達しない学生に特別指導をした上で、再度試験を行うなど、キメの細かい指導を行っている担当教員もかなりいる。

#### <C 音楽学科>

本学全体で実施している単位認定と評価の方法は、概ね妥当な評価であると思える。音楽学科では、特に実技関係の専門科目において、同一科目に複数の担当教員が配置されている関係上、多数の教員が同一教科の評価に関わっていて、また、習熟度別授業を実施している音楽基礎教科では、グレード別に評価を行うなどの特殊性があるので、これらの科目の評価と単位認定では、当該の教科担当教員が学生の現状を勘案しながら相互に評価の方法や基準について協議をし、適切な評価となるよう確認をしている。

(3) 当該短期大学の教学上の責任者である学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述。

単位認定、担当教員による評価は適正に行われていると受け止めている。単位の取得状況も概ね良好である。

なお、学生の授業評価も定期的にも実施しており、その結果を専任教員のみならず非常勤講師にも開陳し、単位認定・評価に関する相互のコミュニケーションが図られているとみている。

## 2.【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述。また調査票の様式等を訪問調査の際に準備。

FD委員会が中心となって前期、後期授業終了前の約2週間で、専任教員に限って「学生による授業評価アンケート」を実施し、その中の記述項目により、担当教員が学生の満足度を把握している。その内容と授業アンケート集計資料はFD委員会によって各教員にフィードバックされ、今後の授業改革に役立てている。また、専攻、コースによってはレポート、実習ノートやe-Learningの「フィードバック」から学生の授業に対する満足度、感想、疑問点、希望などを調査している担当教員も多い。

なお、音楽学科では、学生の満足度調査と結果に対する配慮の観点から、平成18年度前期から次の点で新たに学科独自の評価に取り組むことにした。

- ①非常勤教員への学生の授業評価を実施する。
- ②全学で実施の点検項目以外に学科独自の評価の観点を盛り込む。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、当該学科の学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述。

### < A 生活科学学科 >

担当教員は学生満足度について、担当授業終了後にレポートや試験の中で感想を求め把握し、学科長に報告する場合もある。また、学生部からの非常勤の先生の意見報告も参考にし、必要に応じて学科会議もしくは専攻会議で意見交換を行っている。また、夏期には非常勤の先生方との懇談会で意見交換を行なって共通理解をもつよう努めている。

### < B 幼児教育学科 >

担当教員により異なるが、授業終了後にレポートや試験の中で感想を求め把握している。学生部を通じて、非常勤講師の意見・報告も参考にし、必要に応じて学科会議で意見交換を行っている。また、夏期には非常勤講師との懇談会で意見交換を行っている。

### < C 音楽学科 >

実技教科の「個人教授」という特殊な授業形態では、学生に密着した指導教授である点、教育上最大の効果を上げることが可能であると同時に、教員と学生との人間的関係に問題がある場合は逆に教育効果が半減することもあり、学生の満足度には極端な差が出る可能性がある。音楽学科には常勤、非常勤教員が毎日一堂に会する研修室があり、授業後直ちに問題点を話題に乗せて教員が相互に情報を交換し、そのつど解決に向けて取り組んで授業効果への配慮に努めている。

(3) 同じく学長等が現状をどのように受け止めているかを記述。

各学生による授業評価のみならず、学生会においても独自に満足度の調査を実施しており、学生と教員の人間的接触も濃く、満足度は概ね良好であると受け止めている。

ただし、ユニバーサルアクセス時代への突入に伴う学生の能力低下への対策はいまのうちに積極的に取り組む必要がある。

### 3. 【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年の退学、休学、留年等の数を、「退学者等一覧」の例示を参考にして記載し、当該学科等の状況を明らかにする。

#### < A 生活科学学科 >

〔生活科学学科（生活環境専攻）の退学者等一覧表〕

平成18年5月1日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 41            | 47             | 47              |    |
| うち退学者数    | 1             | 1              | 6               |    |
| うち休学者数    | 0             | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | 0               |    |
| 留年者数      | 0             | 0              | 0               |    |
| 卒業生数      | —             | 46             | 41              |    |

〔生活科学学科（生活情報専攻情報管理コース）の退学者等一覧表〕 平成18年5月1日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 84            | 72             | 71              |    |
| うち退学者数    | 6             | 3              | 4               |    |
| うち休学者数    | 0             | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | 0               |    |
| 留年者数      | 0             | 0              | 1               |    |
| 卒業生数      | —             | 69             | 66              |    |

〔生活科学学科（生活情報専攻メディアコミュニケーションコース）の退学者等一覧表〕

平成18年5月1日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 28            | 27             | 24              |    |
| うち退学者数    | 2             | 3              | 2               |    |
| うち休学者数    | 0             | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | (2)             |    |
| 留年者数      | 0             | 0              | 0               |    |
| 卒業生数      | —             | 24             | 24              |    |

( )…前年度からの復学者。

〔生活科学学科（調理科学専攻）の退学者等一覧表〕

平成18年5月1日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 41            | 41             | 45              |    |
| うち退学者数    | 6             | 4              | 6               |    |
| うち休学者数    | 0             | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | (1)             |    |
| 留年者数      | 0             | 0              | 1               |    |
| 卒業生数      | —             | 37             | 39              |    |

( )…前年度からの復学者。

〔生活科学学科（食物栄養専攻）の退学者等一覧表〕

平成18年5月1日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 55            | 60             | 57              |    |
| うち退学者数    | 1             | 3              | 1               |    |
| うち休学者数    | 0             | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | 0               |    |

|      |   |    |    |  |
|------|---|----|----|--|
| 留年者数 | 0 | 0  | 1  |  |
| 卒業生数 | — | 57 | 55 |  |

< B 幼児教育学科 >

[幼児教育学科の退学者等一覧表]

平成 18 年 5 月 1 日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 175           | 180            | 184             |    |
| うち退学者数    | 4             | 6              | 8               |    |
| うち休学者数    | 0             | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | (1)             |    |
| 留年者数      | 0             | 0              | 1               |    |
| 卒業生数      | —             | 174            | 176             |    |

( )…前年度からの復学者。

< C 音楽学科 >

[音楽学科（演奏コース）の退学者等一覧表]

平成 18 年 5 月 1 日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 15            | 29             | 26              |    |
| うち退学者数    | 0             | 0              | 2               |    |
| うち休学者数    | (1)           | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | 0               |    |
| 留年者数      | 0             | 0              | 2               |    |
| 卒業生数      | —             | 29             | 22              |    |

( )…06 年度に復学した。

[音楽学科（音楽療法コース）の退学者等一覧表]

平成 18 年 5 月 1 日現在

|           | 前年度入学<br>(05) | 前々年度入学<br>(04) | 前々々年度入学<br>(03) | 備考 |
|-----------|---------------|----------------|-----------------|----|
| 入学者数      | 7             | 13             | 8               |    |
| うち退学者数    | 0             | 0              | 2               |    |
| うち休学者数    | 1             | 0              | 0               |    |
| 休学者の内復学者数 | 0             | 0              | 0               |    |
| 留年者数      | 0             | 2(1)           | 0               |    |
| 卒業生数      | —             | 11             | 6               |    |

( )…留年者で休学した数（内数）。

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について記述。

< A 生活科学学科 >

各専攻の過去 3 ヶ年の退学、休学、留年等の数は記載のとおりである。これらの学生への対応は、学生部と緊密な連携をとりながら、主としてクラスアドバイザーがケア（家庭への連絡も含めて）している。

退学の理由は進路変更がほとんどである。退学者は、少ないながら 1、2 回生とも数名おり、クラスアドバイザーや専攻担当教員が個別相談に応じ保護者との対応も行った。

< B 幼児教育学科 >

平成 17 年度入学生の退学者は 4 名であり、全員が進路変更のためである。退学学生は、保護者や高校の担任に勧められて幼児教育学科に入学したものの、自分が考えていたのと

異なるので、保護者を説得して進路を変更した。退学に至るまでのケアについては、クラスアドバイザーが学生および保護者と面談することで対応している。必要に応じて、学科長、次長が面談時に同席する。休学者、留年者はない。

< C 音楽学科 >

17年度の退学者は無い。なお、休学者、留年者はそれぞれ2名あった。休学の理由は、それぞれの家庭の事情で異なり、共に止むを得ない理由のため、支障が解消し復学する際の手続き指導と連絡ケアを継続している。留年の理由は、両名共に出席日数不足(寝坊、単純欠席)を原因として期末試験(必修科目を含む)受験失格で単位不認定となったもので、指導により卒業放棄することなく前期と後期にそれぞれ不足単位を満了して卒業した。

(3) 当該学科等の退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを記述。

< A 生活科学学科 >

退学者は、少ないながら1、2回生とも数名いる。退学等の理由は、入学前のイメージと入学後の実際に体験したこととのギャップによるよりも、学生の個人的状況の変化や家庭の事情による場合の進路変更などが多いと考えられる。退学、休学等の申し出があったときは、クラスアドバイザーが学科長、次長に事前に報告してもらうようにし、その対応を専攻会議等で相談したり、指示したりしている。

< B 幼児教育学科 >

先述のとおり、退学の理由は、進路変更である。これは、保護者や高校の担任の強力な勧めで幼児教育学科に入学したものの、やはり自分がやりたいことはこれとは違うと思い退学を決意したケースがほとんどである。本学科では、学科会議で学生の授業態度、出欠状況等の情報交換を行っているので、全教員が学生の動向をある程度把握していると思う。また、退学・休学等の申し出があった時は、クラスアドバイザーは学年主任・学科長・次長に報告し、ケアの仕方なども相談する。

< C 音楽学科 >

音楽学科の退学、休学、留年者は、平成16年度まではその理由に顕著な傾向が在ることが学生との個別対応で明らかになった。学科の特性上、毎日継続した地道な練習を基本とする実技科目が多く、実力向上の喜びをもとに更に次へのステップを目指すことの出来る学生と、精神的安定、忍耐力、持久力等が不足する学生とに二分され、後者には学習意欲の中断による休学や卒業単位不足による留年に至るのが例年の傾向である。しかし平成17年度末に休学した両名は共に社会人入学生で、休学の理由となった家庭の事情にも類似性はなく止むを得ないもので、個別指導というより、原因が解消され復学する場合の手続き等のアドバイスと今後の連絡に気配りをしていきたい。

(4) 同じく学長等は、当該短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述。

退学の理由としては、学生の個人的状況の変化や家庭の事情による場合(進路変更等)が多いと見受けている。退学、休学などが発生した時は、クラスアドバイザーが学科長、次長に事前に報告してもらうようにし、その際ケアの仕方などについても指示している。

なお、平成 17 年度卒業生の 2 年間の退学率は 4.3%（469 名中 20 名）で漸次減少傾向にある。休学・留年も年間 2～3 名で堅実な取組みが行われていると受け止めている。

#### 4. 【資格取得の取組みについて】

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(4)で報告した取得可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（取得をめざした学生数、取得数、取得割合等）を学科等ごとに示す。

##### < A 生活科学学科 >

平成 17 年度に実施した免許・資格等の取得の状況は以下のとおりであった。

##### ①〔教育課程に関係する免許・資格等の取得状況〕

| 資格等の名称  |     | 受験者数<br>(申請者数) | 合格者数<br>(認定者数) | 合格率 %<br>(取得率) |
|---|-----|----------------|----------------|----------------|
| 色彩能力検定  | 3 級 | 35             | 16             | 45.7           |
| 色彩能力検定  | 2 級 | 18             | 8              | 44.4           |
| 福祉住環境コーディネーター検定   | 3 級 | 15             | 7              | 46.7           |
| ファッションビジネス能力検定  | 3 級 | 12             | 4              | 33.3           |
| ファッションビジネス販売能力検定  | 3 級 | 4              | 0              | 0.0            |
| 日本語文書処理技能検定   | 3 級 | 90             | 75             | 83.3           |
| 日本語文書処理技能検定   | 2 級 | 2              | 1              | 50.0           |
| 簿記検定（全国経理学校協会）  | 3 級 | 112            | 97             | 86.6           |
| 〃   | 2 級 | 63             | 46             | 73.0           |
| 簿記検定（日本商工会議所）   | 3 級 | 36             | 3              | 8.3            |
| 〃   | 2 級 | 1              | 0              | 0.0            |
| Microsoft Office Specialist<br>Microsoft Office Excel 2003 Expert |     | 20             | 4              | 20.0           |
| Microsoft Office Specialist<br>Microsoft Office Excel 2003        |     | 45             | 34             | 75.6           |
| 情報処理士   |     | (85)           | (85)           | (100)          |
| ビジネス実務士   |     | (80)           | (79)           | (98.8)         |
| 調理師免許   |     | (38)           | (38)           | (100)          |
| 栄養士免許   |     | (56)           | (56)           | (100)          |
| フードスペシャリスト資格（調理）  |     | 5              | 4              | 80.0           |
| 〃（栄養）   |     | 49             | 44             | 89.8           |

##### ②〔教育課程に関係しない免許・資格等の取得状況〕

| 資格等の名称                     |     | 受験者数<br>(申請者数) | 合格者数<br>(認定者数)              | 合格率 %<br>(取得率)     |
|----------------------------|-----|----------------|-----------------------------|--------------------|
| 販売士                        | 3 級 | 87             | 51                          | 58.6               |
| 医療事務                       | 2 級 | 27             | 13                          | 48.1               |
| ホームヘルパー                    | 2 級 | 10             | 10                          | 100.0              |
| ホームッキングコンサルタント             |     | (82)           | (82)                        | (100)              |
| 全国料理学校教員資格                 | 上級  | (90)           | (90)                        | (100)              |
| 全国料理学校教員資格                 | 助教員 | (82)           | (82)                        | (100)              |
| 認定栄養士実力試験<br>(全国栄養士養成施設協会) |     | 57             | 57<br>(A 認定 53)<br>(B 認定 4) | 100<br>(93)<br>(7) |

< B 幼児教育学科 >

免許・資格の取得者数の過去3ヶ年の推移は以下のとおりである。

①〔教育課程に関係する免許・資格等の取得状況〕

〔幼児教育学科の過去3ヶ年における免許・資格取得数〕

|                            | 前年度入学 (04)    | 前々年度入学 (03)   | 前々々年度入学(02)   |
|----------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 卒業者数                       | 174           | 174           | 177           |
| 保育士資格取<br>(%)              | 169<br>(97.1) | 170<br>(97.7) | 170<br>(96.0) |
| 幼稚園教諭二種<br>(%)             | 171<br>(98.3) | 168<br>(96.6) | 168<br>(94.9) |
| レクリエーション・インストラクター資格<br>(%) | 59<br>(33.9)  | 30<br>(17.2)  | 45<br>(25.4)  |

②〔教育課程に関係しない免許・資格等の取得状況〕

〔ライセンス支援による免許・資格の取得状況〕

| 年度 | 免許資格の名称   | 取得を目指した学生数 | 取得者数 | 割合   |
|----|-----------|------------|------|------|
| 15 | 医療事務2級    | 4          | 3    | 75%  |
|    | ホームヘルパー2級 | 14         | 13   | 93%  |
| 16 | 医療事務2級    | 2          | 1    | 50%  |
|    | ホームヘルパー2級 | 5          | 5    | 100% |
| 17 | 医療事務2級    | 1          | 1    | 100% |
|    | ホームヘルパー2級 | 1          | 1    | 100% |

< C 音楽学科 >

①〔教育課程に関係する免許・資格等の取得状況〕

〔音楽学科生の音楽療法士2種称号取得状況〕(平成15年度～17年度)

| 年度 | 免許資格の名称   | 取得を目指した学生数 | 取得者数 | 割合   |
|----|-----------|------------|------|------|
| 15 | 音楽療法士2種称号 | 11         | 11   | 100% |
| 16 | 音楽療法士2種称号 | 6          | 6    | 100% |
| 17 | 音楽療法士2種称号 | 13         | 11   | 85%  |

※17年度は1名留年、1名休学。

〔専攻科生(音楽専攻)の音楽療法士1種称号取得状況〕(平成16年度～17年度)

| 年度 | 免許資格の名称   | 取得を目指した学生数 | 取得者数 | 割合   |
|----|-----------|------------|------|------|
| 16 | 音楽療法士1種称号 | 4          | 4    | 100% |
| 17 | 音楽療法士1種称号 | 2          | 2    | 100% |

※17年3月(16年度)から1種称号取得開始

②〔教育課程に関係しない免許・資格等の取得状況〕

〔ホームヘルパー2級資格取得状況〕(音楽療法コース)(平成15年度～17年度)

| 年度 | 免許資格の名称   | 取得を目指した学生数 | 取得者数 | 割合   |
|----|-----------|------------|------|------|
| 15 | ホームヘルパー2級 | 3          | 3    | 100% |
| 16 | ホームヘルパー2級 | 4          | 4    | 100% |
| 17 | ホームヘルパー2級 | 9          | 9    | 100% |

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述。

< A 生活科学学科 >

平成 17 年度より導入の認可を得た食物栄養専攻で「栄養教諭 2 種免許」の教育課程を平成 18 年度より開始したところである。

< B 幼児教育学科 >

なし。

< C 音楽学科 >

演奏コース生の専門性を生かした免許・資格取得のための方策について、全国の大学で同じ学科を展開している他大学の実施例を参考に、平成 19 年度入学生から音楽学科の 3 コース(平成 18 年度新設の「デジタル音楽創作コース」も含む)全てに、全国音楽療法士養成協議会認定「音楽療法士 2 種」の称号(資格)取得が可能になるよう、平成 18 年度 1 年間をかけて教育課程の再編と授業設定等の準備をすることとなった。

また、本学幼児教育学科に倣ってレクレーションインストラクター資格取得(平成 19 年度入学生)と音楽関連の就職に有利な「音検」グレード取得支援(平成 18 年度生)に向けても具体策を講ずる予定である。

5. 【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門就職数、割合等)について記述。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備。

各学科の専門就職の状況を表に示す。なお、専門就職先からの卒業生に対する評価については参考資料として準備する。

< A 生活科学学科 >

[平成 15 年度就職状況]

|      | 事務  | 販売・営業 | 企画 | デザイナー | パトナー | サービス | 介護 | 調理師(員) | 栄養士 | 製造 | その他 | 合計  |
|------|-----|-------|----|-------|------|------|----|--------|-----|----|-----|-----|
| 生活環境 | 7   | 9     | 1  | 7     | 1    | 2    | 1  |        |     | 1  | 1   | 30  |
| 情報管理 | 46* | 12    |    |       |      | 7    |    |        |     | 1  | 2   | 68  |
| メディア | 15  | 6     | 1  | 1     |      | 5    |    |        |     |    |     | 28  |
| 調理科学 | 2   | 5     |    |       |      |      |    | 22     |     | 1  |     | 30  |
| 食物栄養 | 6   | 1     |    |       |      | 1    |    | 3      | 38  | 2  |     | 51  |
| 合計   | 76  | 33    | 2  | 8     | 1    | 15   | 1  | 25     | 38  | 5  | 3   | 207 |

\*内、公務員は 1 人(事務職)

[平成 16 年度就職状況]

|      | 事務 | 販売・営業 | 講師 | デザイナー | プログラマー | サービス | 介護 | 調理師(員) | 栄養士 | 製造 | その他 | 合計  |
|------|----|-------|----|-------|--------|------|----|--------|-----|----|-----|-----|
| 生活環境 | 13 | 7     |    | 9     |        |      |    |        |     | 1  | 1   | 31  |
| 情報管理 | 46 | 10    |    |       | 1      | 5    |    |        |     |    |     | 62  |
| メディア | 9  | 4     | 1  |       |        | 2    |    |        |     |    |     | 16  |
| 調理科学 | 6  | 6     |    |       |        | 1    | 1  | 21     |     |    |     | 35  |
| 食物栄養 | 3  | 3     |    |       |        |      | 1  | 2      | 41  |    |     | 50  |
| 合計   | 77 | 30    | 1  | 9     | 1      | 8    | 2  | 23     | 41  | 1  | 1   | 194 |

〔平成 17 年度就職状況〕

|      | 事務 | 営業 | 販売 | デザイナー | 企画 | プログラマ | サービス | 調理師(員) | 栄養士 | 合計  |
|------|----|----|----|-------|----|-------|------|--------|-----|-----|
| 生活環境 | 17 | 1  | 14 | 8     | 2  |       | 1    |        |     | 43  |
| 情報管理 | 50 | 2  | 12 |       |    | 1     |      |        |     | 65  |
| メディア | 16 | 4  | 3  |       |    | 1     |      |        |     | 24  |
| 調理科学 | 9  | 1  | 5  |       |    |       |      | 17*    |     | 32  |
| 食物栄養 | 7  |    | 4  |       |    |       |      | 1      | 36  | 48  |
| 合計   | 99 | 8  | 38 | 8     | 2  | 2     | 1    | 18     | 36  | 212 |

\*内、公務員採用は 4 人

※専門職（デザイン系・情報系・調理師系・栄養士系）の就職率は、平成 15 年度ではデザイン系 30%（就職希望者 30 名中 9 名）、情報系 96%（就職希望者 96 名中 92 名）、調理師系 73%（就職希望者 30 名中 22 名）、栄養士系 80%（就職希望者 51 名中 41 名）であった。平成 16 年度はデザイン系 29%（就職希望者 31 名中 9 名）、情報系 100%（就職希望者 78 名）、調理師系 60%（就職希望者 35 名中 21 名）、栄養士系 86%（就職希望者 50 名中 43 名）であった。平成 17 年度はデザイン系 23%（就職希望者 43 名中 23 名）、情報系 100%（就職希望者 89 名）、調理師系 53%（就職希望者 32 名中 17 名）、栄養士系 77%（就職希望者 48 名中 37 名）であった。

< B 幼児教育学科 >

〔平成 15 年度就職状況〕

|      | 保育士 | 幼稚園教諭 | 事務 | 販売・営業 | 介護 | サービス | 合計  |
|------|-----|-------|----|-------|----|------|-----|
| 幼児教育 | 142 | 9     | 8  | 7     | 2  | 2    | 170 |

〔平成 16 年度就職状況〕

|      | 保育士 | 幼稚園教諭 | 事務 | 販売・営業 | 介護 | サービス | その他 | 合計  |
|------|-----|-------|----|-------|----|------|-----|-----|
| 幼児教育 | 133 | 16    | 6  | 2     | 1  | 1    | 1   | 160 |

〔平成 17 年度就職状況〕

|      | 保育士 | 幼稚園教諭 | 事務 | 販売 | 介護 | サービス | 生産 | 合計  |
|------|-----|-------|----|----|----|------|----|-----|
| 幼児教育 | 127 | 17    | 11 | 2  | 1  | 2    | 1  | 161 |

※専門職（保育士・幼稚園教諭）の就職率は、平成 15 年度 88.8%（就職希望者 170 名中 151 名）、平成 16 年度 93.1%（就職希望者 160 名中 149 名）、平成 17 年度 89.4%（就職希望者 161 名中 144 名）であった。

< C 音楽学科 >

〔過去 3 年間の就職状況(専門就職／音楽講師・福祉関連職員とその他)〕

| 年度 | コース別 | 音楽講師 | 介護 | 事務 | 営業 | 販売 | サービス | 就職数 |    |
|----|------|------|----|----|----|----|------|-----|----|
| 15 | 演奏   | 13   | 1  |    |    |    | 1    | 15  | 21 |
|    | 音楽療法 |      | 4  |    | 1  |    | 1    | 6   |    |
| 16 | 演奏   | 5    |    | 4  |    |    | 1    | 10  | 16 |
|    | 音楽療法 | 2    | 1  | 3  |    |    |      | 6   |    |
| 17 | 演奏   | 7    |    | 1  |    | 1  | 2    | 11  | 17 |
|    | 音楽療法 | 1    | 3  | 2* |    |    |      | 6   |    |
|    |      | 28   | 9  | 10 | 1  | 1  | 5    | 54  |    |

\*内、1 人は医療団体職員兼音楽療法士

※専門職（音楽講師、福祉施設等職員）の就職率は、平成 15 年度 85.7%（就職希望者 21

名中 18 名)、平成 16 年度 50.0% (就職希望者 16 名中 8 名)、平成 17 年度 70.5% (就職希望者 17 名中 12 名) であった。

(2) 卒業生に対する就職先 (専門就職に限らない) 及びその他の進路先 (編入先等) からの評価を、短期大学全体については学長等が、当該学科等については学科長等が現状をどのように受け止めているか記述。

<学長>

アンケートを実施してまだ年数を重ねていないが、本学の卒業生は素直で真面目、努力家であるという評価が一般的である。ただ積極性や時代が求めるものに対する敏感さがいま少しという意見もあって考慮すべきである。

< A 生活科学学科 >

平成 16 年 3 月の卒業生に対する主な就職先の事業所に依頼して卒業生に関する印象・評価および本学に対する意見・要望などをアンケート調査した。回答があった事業所のうち、専門職のデザイン系、調理・栄養関係での卒業生の評価・印象は、全体的評価が 5 段階評定 (優れている - 劣っている) で 4.00~3.93 と高い。その一方で、特に専門性、創造性、コミュニケーション能力の点では平均を下回っており多様化する各事業所のニーズに即して対応していかなければならない。なお、事務、販売、サービス系においては全体評価が 3.65 と低いことから、さらにしっかりした基盤を整備して臨まなければならない。

< B 幼児教育学科 >

就職先の事業所に対して、平成 16 年 3 月の卒業生に関する印象・評価および本学に対する意見・要望などをアンケート調査した。その結果、回答があった幼稚園・保育園関係では就職した学生の約 10% がすでに退職していた。また、卒業生の評価・印象は、全体的評価が 5 段階評定 (優れている - 劣っている) で 3.40 であり、特に専門性 3.08、創造性 3.18、主体性 3.23 と平均を下回っており、学科としては、さらにしっかりした基盤を整備する必要があると思われる。

< C 音楽学科 >

就職課で実施した調査では、音楽学科の専門就職先からの回答が少なく、評価を十分に把握することが出来なかった。平成 18 年度前期にも、学科独自に調査する予定である。また、進学者のほとんどは本学専攻科又は研究生で、平成 16、17 年度共に他大学への編入学はなかった。

(3) 卒業生に対し「学生時代についてのアンケート (卒業後評価等)」等を実施している場合はその概要とその結果を記述。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述。

卒業式直前の学生を対象とした「学生生活を振り返ってのアンケート」を平成 16 年度より実施している。平成 17 年度の結果を下表に示す。ほとんどの学生が、「専門的知識・技術が身についた」、「幅広い教養が身についた」、「人間的な成長ができた」、「よい友人関係ができた」と思っており、本学の教育効果を確認することができる。就職戦線が厳しい社会情勢も影響して「就職活動を十分にできた」と答える学生は他の質問項目と比較すると

少なかったが、半数以上の学生が「そう思う」と回答していた。

卒業してから年月を経た卒業生を対象としたアンケート調査は現在のところ実施していない。今後、同窓会と連携しながら、幅広く卒業生の意見を大学評価に取り入れていきたい。

〔「学生生活を振り返ってのアンケート」平成 17 年度の集計結果〕

|                 | とても<br>思う | やや<br>思う | どちらでも<br>ない | あまり<br>思わない | まったく<br>思わない |
|-----------------|-----------|----------|-------------|-------------|--------------|
| 専門的な知識・技術が身についた | 37.8%     | 55.9%    | 5.2%        | 0.5%        | 0.5%         |
| 幅広い教養が身についた     | 25.9%     | 61.0%    | 10.7%       | 1.8%        | 0.5%         |
| 人間的な成長ができた      | 26.7%     | 57.3%    | 13.6%       | 1.8%        | 0.5%         |
| よい友人関係をつくれた     | 60.5%     | 32.2%    | 5.8%        | 1.3%        | 0.3%         |
| 就職活動を十分にできた     | 17.2%     | 35.7%    | 21.4%       | 21.4%       | 4.2%         |
| 本学に来て満足している     | 33.9%     | 43.9%    | 15.1%       | 5.8%        | 1.3%         |

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか。学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているか記述。

<学長>

上記(2)でも述べたように、本学の卒業生は「素直さ」「真面目さ」といった部分では社会から一定の評価があるが、状況への感度、積極性を育む必要がある。このためには、在学中に必要な情報を自ら入手したり、自主的な課題を設定して取り組む学習姿勢を促進する必要がある。開学 40 周年を期して e-Learning 環境などの整備を行った目的もここにあり、これらを有効に活用し自己開発型の学習をさらに推進していきたい。

< A 生活科学学科 >

卒業生は社会から高い評価を得ていると受け止めている。卒業生の就職先などでは、「本学の卒業生は学生生活で培われた建学の精神と専門的知識・技術が備わっており、職場における立場を理解しようとしている。」との温かい評価のものが多く、このことは、本学の就職率の高さと関連していると考えられる。また、社会的評価が高いのは、今までの専攻カリキュラムが良好に機能しているものと思う。

< B 幼児教育学科 >

現場の保育士を招いての実習反省会での報告、また幼児教育の専門職（保育士・幼稚園教諭）としての就職者が 144 名と就職希望者の約 90%と非常に高いことから、卒業生の社会的評価が高いことが窺える。

< C 音楽学科 >

演奏コースの主な専門就職先であるカワイ(福井、石川両県)やヤマハ、その他地域の楽器店への就職状況を見る限り就職数もほぼ変わりが無く、むしろ音楽療法コースからのピアノ講師としての就職が継続的にあり、これも学科全体として広い意味での専門就職と捉えると、幼児数の減る少子化の時代に、本学科へのピアノ講師としてのニーズは僅かではあるが増える傾向が見えて、これらを総合すると専門就職先からの評価は概ね良好であると判断している。

一方、音楽療法コース卒業生では、地域の病院や福祉施設へ音楽療法士の資格を生かした常勤職員として、平成 17 年度も就職希望学生 6 名のうち 4 名が専門就職をし、第 1 期生からの平均就職率(専門)は 7 割強となっている。最近では、障害者施設関係で活躍して

いる卒業生に対する高い評価も聞こえてくるなど(福井県丹南地区)、徐々に地域社会での評価を獲得しているようである。

## 6. 【特記事項について】

(1) この《IV教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述。

### < A 生活科学学科 >

生活環境専攻では、学生が各種のデザインコンクールに制作品を出展し、数多くの賞を得た。また、調理科学及び食物栄養専攻の学生は調理実習として、地域社会に開放した生活文化研究センターの講習会にアシスタントとして参加した。

### < B 幼児教育学科 >

授業で習得した学習成果と卒業研究の成果「製作展示&発表会」を学年末(2月18日)に学外で発表した。内容は、製作展示部門は16点、ステージ発表は10点であり、幼児教育学科全教職員と学生167名がこれに当たった。

### < C 音楽学科 >

当学科が実技(実習)を主体とする音楽教育の効果を挙げるために、学内ではいち早く専攻科を立ち上げた。さらに本学専攻科が「大学評価・学位授与機構」認定を受けてより、担当教員の徹底した学位申請教育(実技)の成果により、全国の音楽関係専攻科の中での学位合格率は高い。平成17年度も学位申請の6名(演奏5名、音楽療法1名)全員が合格している。この申請の過程で積み上げる厳しい学習鍛錬を通して学生の実力は飛躍的に高まり、学位取得後の学生の確固とした自信へとつながって、結果的に卒業後、地域社会に高く貢献する人材を送り出すことにも繋がっている。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述。

特になし。